

コスメ分野を 学問として学び 未来につなげる。

School of Cosmetic Science

コスメティック サイエンス学環

先進健康科学研究科 先進健康科学専攻 健康機能分子科学コース

天野 由惟 佐賀県 三養基高等学校出身

本田 愛華 福岡県 城南高等学校出身

〈学環の特色〉

コスメティックサイエンスを専門に学べる国公立大学初の学環として、化学・生物学・皮膚科学・薬学・工学などを融合した学際的教育を展開します。理工学部や農学部など学部横断型の履修により、基礎から応用まで体系的に学び、幅広い知識と実践力を養成します。さらに、佐賀県のコスメティック構想を背景に、自治体・企業と連携した共同研究やインターンシップを実施。地域資源や未利用資源を活用した原料開発、製品化を見据えた実践的なプロジェクトにも取り組みます。経済的視点やデザイン発想も取り入れながら、多角的な視野と創造力を育み、化粧品業界をはじめ多様な分野で活躍できる人材を育成します。

■ 教育目的

コスメティックサイエンスの専門性を備え、開発・製造に貢献できる技術者を育成します。あわせて化学物質の安全管理を担う力と、産学官連携を通じてイノベーションを創出する学際的素養を養います。

アドミッション
ポリシーはこちら



■ 合格者インタビュー



化粧品に関する科学的根拠を専門的に学び、 人の外見だけでなく心にも寄り添う製品開発を目指して

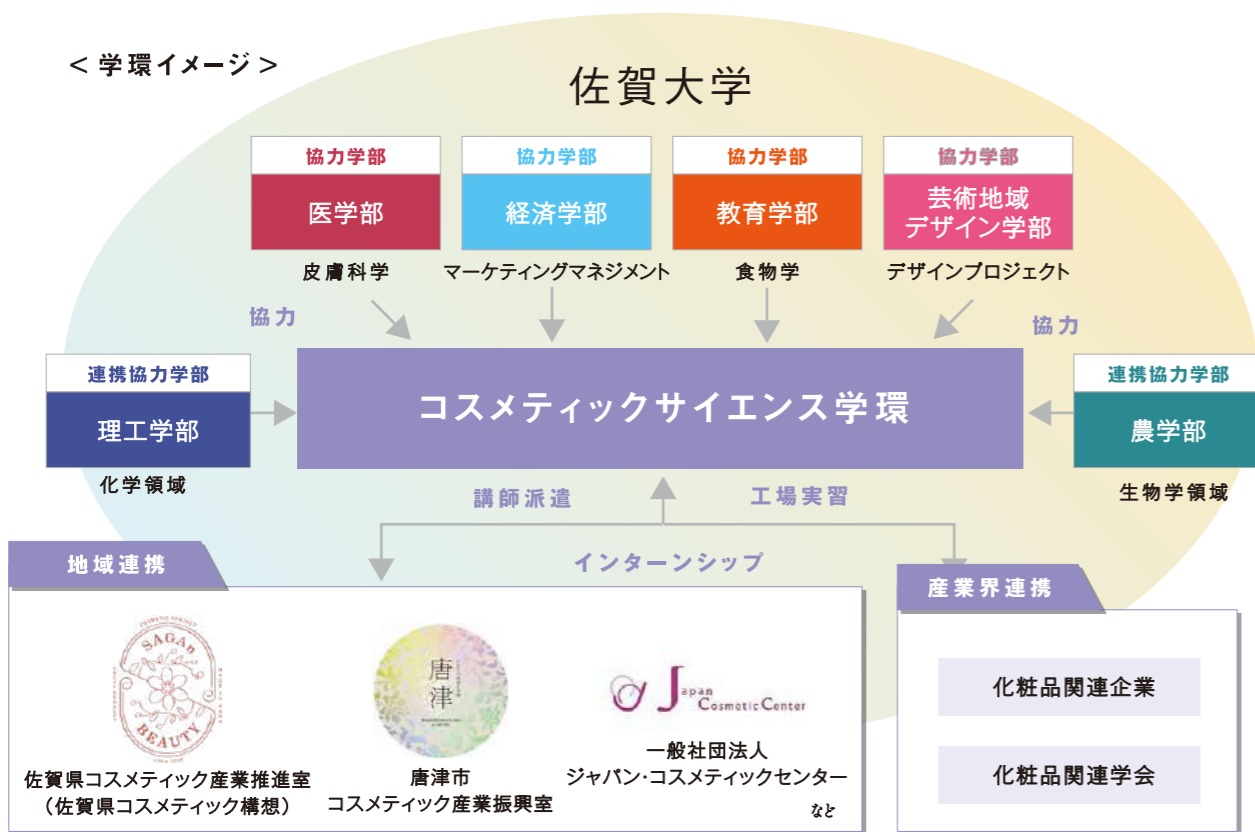
私は、白斑を経験したことで、化粧品には見た目を整えるだけでなく人の気持ちを前向きにする力があると実感し、化粧品開発に興味を持つようになりました。そこで、成分についてや皮膚・生体への影響など、化粧品に関する科学的根拠を専門的に学びたいと考えようになりました。化学や生物学、皮膚科学などを幅広く学びながら、地域の産業とも連携出来るコスメティックサイエンス学環は、自分の目標を実現するために最適な環境だと感じ、本学を志望しました。将来は、人の心にも良い影響を与えられる化粧品づくりに携わりたいです。

コスメティックサイエンス学環
井田 絢音 東京都 西高等学校出身

専門知識と技術を多方面から身につけ 業界にも地域にも貢献できる人材に

01 専門知識を6学部から学ぶ 佐賀大学ならではの学環

本学環は、日本の国立大学では日本初となる「コスメティックサイエンス」を本格的に学べる学環です。化学や生物などの基礎知識、皮膚科学や薬学の専門知識、研究・開発に必要な専門技術などを、佐賀大学の6学部から横断的に学びます。佐賀県や地域企業とも連携し、実践力や開発力を身につけていけるのも特徴です。



学際的人材を育成

理工学部と農学部が連携し、文系と理系の垣根を超え、両方の知見を併せ持つ人材育成を目指します。デザインやマーケティングを、同時に学べるのも大きなポイントです。文系×理系、専門性×社会性、理論×実践をバランスよく身につけ、多様化していく社会で活躍できる人材を育成します。



安心の指導・支援体制

皮膚科学・コスメの専門教授をはじめ、理工学部・農学部から選ばれた経験豊富な教授陣が一人ひとりと向き合い、指導にあたります。新設された学環ですが、学生の所属・身分は他学部と変わりません。必要に応じた学びとサポート体制を十分に整え、将来につながる専門的な学びと安心して送れる学生生活の両方を全力で支援します。



02 実習や体験型学習などの実践的な教育で 学生の成長を加速度的に促す

講義で知識を学ぶだけでなく、自分で考え、手を動かす実習や体験型の学びを重視しています。低学年のうちから実験やプロジェクト学習に参加し、「知っている」だけでなく「使いこなせる」力を育みます。失敗や成功を繰り返しながら、成長できる環境が整っています。



PBL授業 学生が主体的に取り組み、課題を発見・解決していくプロジェクト型の授業です。

香りの物語をデザインせよ

精油を調合し、「ひとつの物語を表現する香水」を完成させます。正解のない課題へのアプローチを考え、科学的な知識とともに、論理的思考力や表現力を養います。



水と油が織りなす不思議な世界を実感せよ

一見混ざり合わない水と油も、科学の力でなめらかに仕上がる=乳化します。その仕組みを実験的に探求し、境界を越えて新たな「かたち」を生み出す力を育てます。



03 専門知識を基盤に、学生のうちから 地域や企業と連携する貴重な体験を

佐賀県コスメティック産業推進室をはじめ、唐津市などの市町、一般社団法人ジャパン・コスメティックセンター(JCC)などの企業と連携しながら、研究・製造に取り組んでいます。学生の研究力・開発力の向上を図るとともに、地元とのつながりを一層強くし、業界でも地元でも活躍できる人材育成を目指します。



産学連携・研究紹介

コスメティック原料開発に関する共同研究

唐津キャンパス内に開発室を設置。化粧品原料素材として有用な地産天然素材の探索を行い、試験的な原料製造に取り組んでいます。



化粧品科学共同研究講座

佐賀県が佐賀県産の化粧品有効成分や新しい技術開発をするために佐賀大学内に設置。新規化粧品有効成分の探索、研究に取り組んでいます。



研究機器紹介



皮膚機能測定装置(粘弾性、水分量など)

皮膚の弾力性や油分・水分量、pHを測定する装置です。主に皮膚科学・化粧品研究・医療・美容分野などで使用されます。



アミノ酸分析装置

角質細胞内のアミノ酸の測定は、保湿状態やバリア機能の指標となり、肌の健康評価に重要です。本機器はアミノ酸を一括測定が可能です。



示差走査熱量計(DSC)

化粧品中の油脂や乳化構造、角層脂質の相転移を解析し、安定性・塗布感・機能性を科学的に評価するために用いられます。

コスメティックサイエンス学環



詳細情報はこちら

生化学の知識と研究経験を
活かして人を幸せにする
製品を作りたい



生化学に興味があったので当時の理工学科生命化学コースに進学しましたが、もともと関心があった化粧品の研究室が設立されたことで、大学4年生から化粧品につながる研究に取り組むようになりました。皮膚科学に関する専門知識を深めると同時に、実験手法や分析機器の操作、データ解析の手法などを習得し、科学的根拠に基づいた化粧品の研究を行っています。佐賀大学は、研究室や学環の新設など新たな可能性がどんどん広がっており、どの分野でも将来の目標を広げられる環境が整っています。私も進学時は教員志望でしたが、研究室での学びを通して化粧品の奥深さを知り、化学・化粧品メーカーの研究開発職を目指すようになりました。新たな将来の目標が定まったことが、私の大きな成長だと感じています。

先進健康科学研究科 先進健康科学専攻
健康機能分子科学コース
本田 愛華 福岡県 城南高等学校出身

コスメ業界からの期待の高まり

佐賀市や唐津市では国内外のコスメ関連企業の進出が相次ぎ、雇用が拡大しています。佐賀県の「コスメティック構想」により企業は増加傾向にあり、将来はアジアの化粧品産業拠点化も期待されています。本学にも即戦力人材への期待が高まり、進路の充実が見込まれています。

大学によるキャリア支援の充実

佐賀大学では「ウェルビーイング創造センター」による就職ガイダンスや求人情報提供など、手厚い支援体制を整えています。本学環の学生も利用でき、コスメ関連企業への就職を見据えた支援も計画中です。インターンシップの単位認定や産学官連携による就職支援などを想定しています。

資格取得や進学の可能性

本学環では、将来の化粧品開発に役立つ資格(毒物劇物取扱責任者、化粧品総括製造販売者責任者申請資格)の取得が可能です。卒業後は就職に加え大学院進学の道もあり、先進健康科学、理工学、農学の各研究科で専門性を高め、化粧品関連の研究職を目指せます。

過去の実績

- 〈就職先〉
 ●資生堂 ●コーセー ●ファンケル ●アルビオン ●マンダム ●クラシエホールディングス ●シャボン玉石けん ●三省製薬 ●キューサイ ●ブルーム ●東洋ビューティ ●岩瀬コスファ ●日油 ●阪本薬品工業 ●再春館製薬所 ●ミリオナ化粧品 ●タカラバイオ
 ※化粧品関連企業のみ

- 〈進学先〉
 ●佐賀大学大学院 ●九州大学大学院 ●東北大学大学院 ●筑波大学大学院 ●宮崎大学大学院 など
 ※関連学部(理工学部化学系及び農学部生命機能科学系分野)の進学実績

カリキュラム一覧

		1年次	2年次	3年次	4年次
教養教育科目	大学入門科目I	英語			
	基本教養科目	情報基礎概論			
	情報基礎概論	インターフェース科目			
	基礎科目	●物理学概説 ●化学概説 ●生物学概説 ●微積分学 ●線形代数学	●情報・統計学	●学術英語	●化学物質演習 ●化学情報処理
専門教育科目	理学系	●無機化学 ●物理化学 ●分析化学I	●分析化学II	●量子化学 ●溶液化学	●生物無機化学 ●化学熱力学
	コア科目	●コスメティックサイエンス概論	●有機化学I ●コスメティックサイエンスPBL ●生化学I	●有機化学II ●コスメティックスサイエンス実験I ●コスメティックスサイエンス実験II ●生化学II	●コスメティックサイエンス実験II ●天然物化学 ●皮膚科学
専門教育科目	農学系	●植物資源学 ●植物生理学	●分子生物学 ●栄養化学 ●食品衛生学	●酵素化学 ●遺伝学	●植物育種学
	学環周辺科目	●コスメ文化論	●食物学	●分子薬理学 ●科学技術者倫理	●体内動態論 ●知的財産法 ●企業インターンシップS ●企業インターンシップL
専門教育科目	卒業研究	●卒業研究	●卒業研究	●卒業研究	●卒業研究
	卒業研究	●卒業研究	●卒業研究	●卒業研究	●卒業研究

授業紹介

コスメティックサイエンス概論

化学・生物学を基礎にコスメ科学を幅広く学び、QOLや安全性、肌トラブル予防や最新研究も理解する入門科目です。

コスメティックサイエンスPBL

成分調査や限られた素材での化粧品づくりにも挑む体験型授業。協働で課題解決に取り組み、創造力や問題解決力を養います。

コロイド・界面化学

クリームや乳液の使いやすさを科学的に解説。コロイドや界面、界面活性剤の働きを学び、化粧品や食品・医薬品に応用される仕組みを理解します。

分野紹介

天然資源化学分野

川口 真一 教授
植物などの天然から得られる成分を原料に使用し、有機化学的変換を経たのち、化粧品材料に利用可能な研究を行います。資源循環を目指した研究を行います。

化粧品科学分野

徳留 嘉寛 教授
皮膚科学の視点から、皮膚の構造や化粧品が皮膚の中に届く仕組みを深く学び、成分の機能性を確かめます。科学の力で未来のコスメを考え、創る力を育てます。

ナノ構造科学

櫻木 美菜 准教授
ナノサイズの分子の構造、材料の成分や働きを科学的に学び、皮膚から効率よく吸収される材料についての研究に繋がります。この知見をもとに、化粧品や医薬分野への応用を養います。

卒業生の主な卒業論文テーマ

- 化粧品原料となる新規油剤の皮膚浸透性の評価と浸透機構の解明
- ナノ粒子化コラーゲンの皮膚浸透性とそのメカニズム
- 未利用植物素材を原料とした化粧品材料の開発
- 抗炎症作用を持つ新規分子の開発
- 化粧品に含まれるナイアシナミドの定量系の検討
- 化粧品の皮膚常在菌短鎖脂肪酸産生特性を使ったクラスターリング
- オルニチン含有人工抗菌ペプチドの酵素耐性評価
- アシル化リジンの非加水分解性アナログの合成
- 疎水性深共晶溶媒の分子間相互作用に対する単環式モノテルペノイドの構造効果
- コスメトロピック性水和深共晶溶媒の開発とタンパク質安定化メカニズムの解明

教員紹介

- | | |
|-------------------------------|---------------------|
| 鯉川 雅之 教授
錯体化学 | 長田 聡史 教授
生物有機化学 |
| 北垣 浩志 教授
国際化粧品分析学 | 徳留 嘉寛 教授
化粧品科学 |
| 川口 真一 教授
グリーンサステイナブルケミストリー | 梅木 辰也 教授
溶液化学 |
| 櫻木 美菜 准教授
ナノ構造科学 | 古藤田 信博 教授
生物有機化学 |
| 辻田 忠志 教授
生化学 | 成田 貴行 教授
機能物性化学 |
| 堀谷 正樹 教授
分光学 | 荒木 薫 准教授
小児科学 |
| 兒玉 宏樹 准教授
分析化学 | 藤澤 知績 准教授
物理化学 |
| 松本 雄一 准教授
薬用植物学 | |